

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3072400561		
法人名	有限会社まほろば大和		
事業所名	グループホーム百楽殿		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町1313 (電話) 0739-43-5366		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	4人, 非常勤 2人, 常勤換算 3.68

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.875 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三谷医院・白浜はまゆう病院・紀南病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな高台に位置するこのホームは、海が近く自然環境に恵まれている。温泉で有名な地域であり、このホームでは毎日温泉を楽しめるという利点がある。もともと保養所として建てられた3階建ての建物の1階部分を使用しているため、外観はホームには見えないが、四季の花を飾り入居者の手作りの品々を随所に置くなど、落ち着いた生活の場となるよう工夫が凝らされている。職員も、入居者とともに楽しみながらも、さりげなく入居者に気を配り、責任ある対応をしている。食堂では会話が弾み笑いがあふれていた。運営面では、運営推進会議などを通し町役場や自治会との意見交換が活発におこなわれており、認知症サポーターの研修を行うなど地域との交流にも力を注いでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、入浴時間の改善や外気を取り込む工夫をするなどの改善課題が出されていた。現在入浴時間も入居者ごとに自由にできるようになり、室内の換気はできるだけ自然の風を取り込むなどの努力がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、自己評価を行うにあたり、項目の一つひとつを職員全員で確認しあっている。運営理念に基づき、自ら改善点を見出し、より質の高いサービスが提供できるよう努力している。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年3回程度開催されている。議題は、認知症を地域の人達に理解してもらうことや、ホームの入居者への支援方法、また入居者のご家族との連携についてなどである。会議は入居者の家族、町職員や地域包括支援センターの職員、老人会の会長、NPO法人の職員等多くの参加で開催されている。地域の人達に認知症への理解を深めてもらう取り組みとして認知症サポーターの研修なども関連して行われている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月家族に意見用紙を同封した手紙を送付する他、最低月一度行われている家族との面談時に意見を聞くようにしている。近くに住み頻繁にホーム訪れる家族についてはその際に意見を聞き、遠方の家族については手紙と電話で話を聞くよう配慮している。町職員のアドバイスで家族会を開催したところ、いろいろな意見が聞けて有意義であった。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会、町職員、地域包括支援センターや他のNPO法人とも連携を持ち、より質の高いサービスが提供できるよう努力している。また、観光地でホーム近隣には民家が少ないが、人の集まりやすいスーパーなどの店舗にも足を運び、積極的に働きかけを行っている。今後は、施設を活かした使い方として民宿も考えており、より多くの人との交流を望んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしての理念をよく理解しており、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を、皆がくつろげる空間のよく見える所に掲示するとともに、管理者と職員は毎月のミーティング時には必ず確認して、よりよいケアができるよう意見を出し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の老人会や婦人会の方々を招いてお茶会をするなど、地域との交流が行われている。近所の公園や海岸で行われるイベントにも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果も全職員が読み、具体的な改善につなげている。前回の外部評価を受け、入浴時間の拡大や外気を取り入れる努力がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会や地域包括支援センター、市町村の職員らがメンバーとして参加している。入居者の家族からも積極的な意見が出され、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや町役場の担当者との意見交換の場も多く、家族会のことなど具体的にアドバイスされるなど良い関係が築かれており、更なるサービスの質の向上に活かされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族には、毎月手紙による報告を行っている。また面会時にも報告している。体調の急変時には電話にて連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には定期的に連絡を取り、意見を聞けるようにしている。毎月報告されている本人の様子を記した家族への手紙には意見用紙を同封するなど、家族の意見反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が離職するときには利用者には不安を与えないよう残りの職員が協力している。交代によるダメージが出ないよう言葉掛けなどを工夫し、動揺を最小限度に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員の能力に応じた研修を受けられるよう計画を立てている。ビデオ研修なども活用し、働きながらトレーニングできるよう工夫している。外部研修で学んだことを内部研修で発表する機会もつくり、全職員が学べるよう努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。近隣のグループホームとも連絡を取り合い、情報交換を行ったり、自己評価の取り組みを話し合ったり、サービスの質の向上を目指している。	○	更に他のグループホームとの交換研修なども活発に取り入れ、より質の高いサービスへの取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居者やご家族にホームを見学してもらっている。体験入居や事前面談を行い、入居者やご家族の意見を取り入れ、安心して利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は、入居者は人生の先輩であるという気持ちを忘れることなく、お互いが協同し、明るく楽しい生活が出来るよう場面づくりや声かけをしている。また、職員は常に自分だったらどうだろうかとの思いで接する姿勢を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が入居者自身の生活歴や性格をよく把握しており、一人ひとりが希望を述べやすい場面づくりをして、本人がぼそつと言った言葉も聞き逃さず書き留め、本人の思いとし、その場面毎に思いに添うよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングで入居者、ご家族、関係者と話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。介護計画は入居者やご家族にもわかりやすいよう説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は通常3ヶ月とし、月1回の家族の面会時にモニタリングをしている。また新しい入居者は1ヶ月で計画を見直している。状態が変化した時には、本人や家族、関係者と話し合い、計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調を壊し、入院を余儀なくされた場合も、総合病院や開業医とも連携をはかり、早期に退院できるよう支援している。また、遠方の家族には2階で宿泊ができるようにし、入居者、家族とも満足できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医との連携をはかっている。やむを得ず、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合には、本人及び家族から同意し納得してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期には、本人や家族、関係する医療機関と話し合っている。また本人の希望は日々の会話からさりげなく聞き出すようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけをしている。個人情報については、保管に配慮し施錠できる保管庫で管理している。	○	玄関から中庭を通して中がよく見える部屋については入居者のプライバシーを守るよう配慮し、工夫することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体のスケジュールはあるが、それを押しつけることなく一人ひとりのペースを大切にしている。日々の過ごし方も一人ひとりの希望を尊重し、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは入居者と職員と一緒に考えて作り、食べている。近くの海岸でひじきや貝と一緒に採り、それを一緒に調理することもある。片づけも利用者と共にやっている。時々一緒に外食することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の外部評価の改善意見を踏まえ、入浴時間を一人ひとりの希望に合わせて行っている。白浜という地域の特長を生かして温泉を引いており、「温泉に入れる」と入居者からも喜ばれていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全職員は入居者の生活歴をよく把握しており、積極的に声かけをしている。入居者は調理や掃除、洗濯などに持てる力を活かすとともに、趣味の編み物などの手芸や工作、園芸などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、外食、ドライブなど入居者の希望にそって積極的に外出支援を行っている。歩行困難なケースでも車や車椅子を使用し、外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や門扉は施錠していない。玄関にはセンサーがあり、利用者が外出してもわかるようにしている。外出しても、止めるのではなく、さりげなく声かけをし、一緒についていくなど安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に2回防災訓練をしている。訓練の際には町内会や婦人会など地域の人たちにも声かけをし、参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は入居者の希望を聞きながら考えているが、できるだけ偏らないよう心がけている。水分摂取は水筒を利用し、摂取量がわかるような工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が外出時に摘んだ季節の花を飾り、季節感が感じられるようにしている。できるだけ外気を取り入れられるよう工夫している。食堂には天井に入居者が書いた俳句を下げ、冷たい感じが出ないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室と和室があり、入居者の心身の状態に合わせて使い分けている。部屋には使い慣れたものを持ち込み、不安にならず居心地よく過ごせる様に工夫している。		